

今年のご挨拶は去年のを見ながら書いているのですが、出だしは「イラクの査察、世界各地で起こるテロ、北朝鮮拉致事件問題など世の中不穏な昨今ですが」となっていました。今年を振り返っても査察が戦争に変わり、テロや北朝鮮の問題は平行線をたどっているという感じで残念ながら特に明るい年だったとは言えないようです。でも、皆様にとってはいい年であったことを願います。

さて、(またまたダイビングですみませんが) 2003年はベネズエラの少し北もありオランダ領のボネールという島への旅行からはじまりました。インディアナポリスでいきなり飛行機に乗り遅れ、帰りは飛行機がキャンセルされるというドジもありましたが、島はとてものんびりしたきれいな所でした。

仕事のほうは夏までは一味は昨年からの続きのコンピュータグラフィックスの勉強をする学生生活で、色々勉強することがたくさんありました。でも、2月から2か月間は日本語教育学会からの依頼で遠隔授業を担当し、世界六か国から20名の受講生にITの利用方法に関する講座を実施しました。初めてのことで、苦労もありましたが、おもしろいこともたくさんありました。由紀子のほうは、編者件著者となった「第二言語習得研究への招待」というタイトルの本がくろしお出版からでました。この本は全編日英二か国語で書かれています。(一味も一章書きました。) 出版社によると結構売れているそうです。(前年の一味の本よりは売れているようです。) また、五月には98年に米国で出版した「なかま」という日本語の教科書の改訂作業を始めるミーティングがありました。この間、3月には学会がらみでニューヨークに行き、911事件後はじめてグラウンドゼロに行き、跡地の広さに唖然としました。(ミュージカルを観たりといった楽しいことも少しはしてきました。)

今年の夏休みは六月に二人で日本に戻り、由紀子は宇和島の実家にも戻りました。自分達の大学院生が夏の間先生として雇われているプリンストン大学の金沢プログラムを視察(?)しに金沢にも行く機会がありました。一味はオーストラリアの日本学会からの招待でブリスベンに4日ほど行ってきました。久しぶりのオーストラリアはなつかしかったです。由紀子は7月に2003 Linguistics Society of America Institute に聴講生として出席、久しぶりの学生生活を楽しんでいました。本人曰くお金さえあれば教授は辞めて学生したいそうです。八月には旧友のスティーブとハワイのオアフ島に行きました。由紀子は昨年ハワイ大でのワークショップのパート2に参加するという大義名分がありましたが、一味には何もありませんでした。そこで、一味はダイブマスターという資格をとることにしました。この資格はプロ資格の一番下です。いつも世話になっているホノルル SSA の大西先生に昨年同様お世話になり、へなちょこプロが誕生しました。また、この時に合わせて日本から由紀子の甥の芳勝(高知大1年海洋環境学)がホノルルにやってきて、オープンウォータという資格をとりました。芳勝は一味と一日中5日間一緒にいた結果、ほとんど一日中海で過ごし、一般の観光客が行くホノルルは全く知らずに帰りました。その後、マウイ島に行きました。マウイ島には、ハナ・コーストという対向車とすれ違えない崖だらけの海岸道路があり、ここを運転して、ブラックサンドビーチや滝を見に行きました。もちろん運転したのは一味です。由紀子だったら今頃この手紙は書けなかったでしょう。

八月からは二人とも平常運転に戻っています。一味は久しぶりに学部生の日本語の授業も一つ担当しています。由紀子は相変わらず雑用におわれています。月に1, 2回はどこかに行っているのですが、旅行の同行者用の飛行機のただ券を三つももらったそうです。今学期は殊に忙しそうで、「なかま」の改訂や論文/本の執筆が殆ど出来ない状態ですから、執筆活動に専念するため、来年一月から一年間研究休暇を取る予定です。半年遅れで一味も一年間の研究休暇に入る予定です。

チビタンは年齢は感じますが、それなりに元気です。でも、暗いところが見えにくいのと、カーペットの上でおそそうをする回数が増えてしまっています。ミータローは相変わらずですが、チビタンと一緒にいるときはいつもほどのびのびできていないようです。今年は久しぶりにクリスマスと正月を日本で過ごす予定です。

お体に気をつけて、楽しいクリスマスとよいお年をお迎えください。

一味 & 由紀子

\*\*\*\*\* 頌春 2004年 猿年\*\*\*\*\*